

小規模校の特長を活かした授業改革と教育 課程の工夫 ～学びの「意欲化・主体化・個性化」～

豊富町 複式教育研究部会

1 研究主題

「小規模校の特長を活かした個別最適な学びと協働的な学びの研究」～「兜沼メソッドの実践を通して」～

【「兜沼メソッド」とは】

- ①資質・能力伸長の基盤は日常の「主体性（自己決定）」「意欲関心（向学心）」「体（経）験」「チャレンジ精神」であると押さえる
- ②教育課程に児童生徒一人一人の得意・特異能力を伸ばす機会を位置づける。
- ③AI教材を活用し、個別最適化した予習・復習・反復学習を継続して行う
- ④各教科で「個別最適な学び・協働的な学び」の授業形態を取り入れる。

2 多様性に富む本校児童生徒

2019年度から学校選択制の一つである「小規模特認校」となった本校には以来、町内外から様々な事情や目的で児童生徒が転入してくる。児童生徒数は18年5名だったが23年には20名を超える。学力は、少人数であっても転入前の学校で特別支援学級だった子から中1で英検準二級を取得している子も在籍しておりとても幅広い。トランスジェンダーの子・前の学校で不登校気味だった子・発達障害疑いの子・札幌圏の進学校を目標としている子等々実に多様性に富んでいる。このような児童生徒の実態から「個別最適な学び」の実現は本校にとって避けて通れない課題である。



3 授業改革と教育 課程の工夫

本校の課題解決のため、今年度あらたに1の「研究主題」を立て、複式少人数小中併置の小規模校の特長を活かして、以下の実践に取り組んでいる。

〔授業改革として〕

- ①「単元内自由進度学習」
目的：主体的な学び・個別最適な学び
- ②「思考マッピング学習」
目的：協働的な学び
- ③「思考コードを活用した学習」
目的：主体的な学び・個別最適な学び・思考力の育成



〔教育課程の工夫〕

- ④「個別探究（選択教科）学習」（レシカタイム）
目的：学びの育欲化・主体的な学び

- ⑤「プロジェクト型学習」
目的：主体的な学び・学びの総合化
- ※①～④は11月の町研大会（兼複式研）で研究発表と授業公開。⑤は8月に北海学園大学との交流時に実践。

4 今後の方向性

現在は上記の実践を位置づけた R5 教育課程編成の途中である。児童生徒数の増加に伴い教職員定数も改善されつつある。R5は小学校+1、R6には中学校+3となる見込みとなった。実践の成果が、教育の質（変化）・教職員の量（数）となって見えてきている。R5はそれが持続可能となるかの分水嶺の年である。

